

国道 24 号地元中学生との協働作業による落書き消しの取り組みについて

国土交通省 近畿地方整備局 和歌山河川国道事務所 和歌山国道維持出張所

1. はじめに

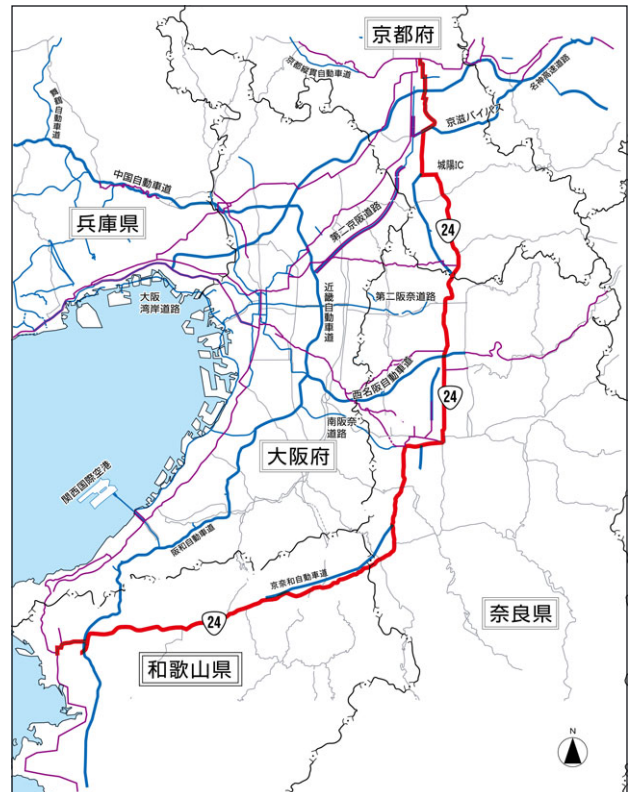
一般国道 24 号は、京都府京都市を起点とし、奈良市、橋本等を経て和歌山市に至る延長約 184km（H24.5.1 現在重複区間含む）の主要幹線道路で、和歌山河川国道事務所和歌山国道維持出張所は、そのうち和歌山県内における約 69km（H24.5.1 現在重複区間含む）管理を行っています。

古くは奈良時代、和歌山と奈良を結ぶ「南海道」といわれ、江戸時代以降、徳川吉宗など歴代の紀州藩主の参勤交代に利用されたことから「紀州街道」、その後、庶民が大和地方との関わりを深くもつようになり「大和街道」と名を変え、文化の交流、地域の発展を支えてきた歴史のある道です。

沿線には、歴史的遺産が豊富で魅力のある地域が多数あります。

しかしながら、このようなポテンシャルをもった地域であるにも関わらず、景観や住環境を害するいたずらによる落書きが後を絶たず対策に苦慮しているところです。

今回、和歌山国道維持出張所では、落書き対策の一環として和歌山県警と連携し、地元中学生を対象に落書きの悪性や環境美化の必要性を理解してもらい、生まれ育った地域に愛着を持ち、快適な生活環境を維持することの規範意識の向上を図ることを目的として、国道 24 号の防護柵に描かれた落書き消しや清掃等の社会貢献活動を実施しましたので紹介します。



一般国道 24 号位置図

2. 落書きの現状

落書きについては、道路パトロールで発見するものの他、住民等からの通報によるものもあります。

落書きを発見した場合、差別的なものや個人を誹謗中傷する内容を除き、警告貼紙（『警告 落書きをやめて下さい。我々もパトロールをしています。もし、落書きを目撃されたら和歌山国道維持出張所に通報をお願いします。』）の掲示により再発防止警告をおこない、一定期



遮音壁への落書き事例

間を経てから道路管理者で消去しています。

しかし、このような警告を行っても落書きが減少することはなく、逆に巧妙で広範囲に描かれるものが増えてきています。



横断BOXへの落書き事例



警告貼紙

3. 落書き消し作業箇所を選定

作業を行う場所については、和歌山県警との協議の結果、次の条件を満たす箇所を選定することとしました。

1) 落書き被害箇所

過去から落書きによる被害が多発している場所であること。

2) 安全な作業スペース

作業を行うにあたり、一般交通の支障にならず、作業者の安全が確保できる場所であること。

3) 啓発効果

通行者が多く、広く一般に環境美化を啓発できる場所であること。

以上のことを勘案し、今回の作業箇所として和歌山市元寺町地先を選定しました。

当該箇所は、平成22年5月に歩道の防護柵への落書きを発見し、防止対策としての「警告貼紙」を掲示しましたが効果がなく、平成23年10月と平成24年4月の計3回にわたり落書きが増える状況でした。

作業スペースについては、歩道幅員が4m以上あることから安全に作業するスペースを確保し、一般の通行者の通行の支障にもならないことを確認しました。さらに、国道24号と国道26号和歌山北バイパスの合流点にあたり、近隣のショッピングセンターに向かう最寄りの

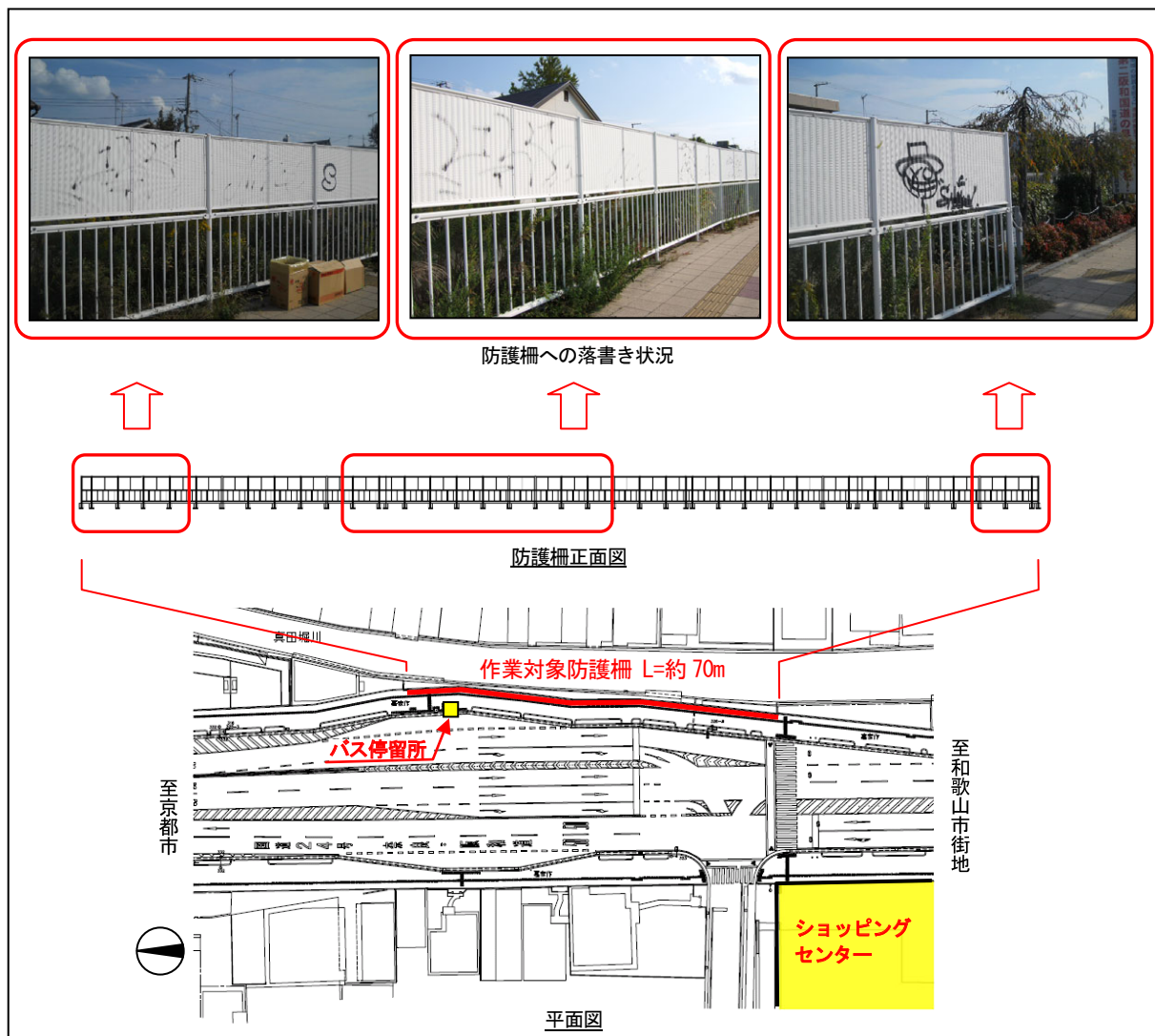


落書き消し作業箇所位置図



落書き消し作業箇所（当時）

バス停留所前に位置することから、自動車交通量が多いのはもちろんですが、歩行者や自転車の通行も多く環境美化の啓発を図るうえでも最適な場所でした。



作業箇所の概要図

4. 作業概要

作業日時：平成 24 年 10 月 31 日（金） 15：00～16:00

作業内容：国道 24 号の防護柵に黒いペンキで描かれた落書きに白いペンキの重ね塗り及び周辺歩道部分の除草作業。（作業延長約 L=70m）

参加者：和歌山市立伏虎中学校生徒 5 人及び学生サポーター 3 人*

中学校教諭、和歌山県警、和歌山市、国土交通省職員等 総勢 30 人

※学生サポーター：大学生・大学院生で構成された、和歌山県警察本部長委嘱のボランティア

当日は天候にも恵まれ、さわやかな秋空の下、参加者で歩道沿いの防護柵の黒いペンキで描かれた落書きを、白いペンキで丁寧に塗り重ねて消していきます。

最初は、楽しそうにペンキを塗っていましたが、作業を重ねていくうちにいつの間にかみんな真剣な表情で黙々と作業を行っていました。



落書き消し作業状況

落書きを消し終えた後、周辺の除草作業を行いました。

作業中、歩道を歩いている地域の方から、「がんばって！ご苦労さん！」などと、声援をいただくほほえましい光景も見られ、参加者らは、何よりも励みになったことだと思います。

作業は無事終了し、歩道は元通りの快適な空間によみがえりました。



落書き消し作業を見守る歩行者



作業後の現場状況

5. 参加者の感想

作業を終えた伏虎^{ふっこ}中学校の生徒より感想をいただきました。(以下抜粋)

『地域の美化活動に参加できて本当によかったと思います。地域のために尽くせたのは、僕の誇りです。落書きなんて二度としてほしくないです。落書きはたくさんの人に迷惑をかけます。見ると気分も悪くなります。迷惑を考えてほしいと思いました。』(2年1組男子)

『落書きをした人たちに、その建物やフェンスをつくった人の気持ちを考えてもらいたいです。自分がつくったものが台無しにされる気持ちを考えれば、落書きなんて絶対にできないと思います。』

落書きをされる前に食い止めたい。その一步として「落書きはいけないこと」ということをみんなに伝えていきたい。そして、自分も積極的に何か活動を起こしたいと思いました。』(2年2組女子)

『落書きを書くのはきっと簡単だし疲れなと思います。でも、その簡単に書いた落書きを消すのはとっても苦勞する。』

落書きを書いた人に落書きを消す苦勞を知ってほしいと思います。』

そして、みんなにもっと自分たちの地域をきれいにする活動をどんどんしてほしいと思いました。』(2年3組男子)

『私たちがペンキを塗っているのを見て、「落書きはしないでこーう！地域全体で協力して美しい和歌山市にしていこう！」と、思ってくれた人が1人もいてくれたらうれしいです。』

黒い落書きが少しずつ白い壁に戻っていくのがとてもうれしかった。』

このような活動があれば積極的に参加し、私の好きな和歌山市を美しくしていきたいです。』

(2年3組女子)

『今日、美化活動をさせてもらった場所は、学校の帰り道で家からも近い場所です。いつも帰り道にあの落書きが目に入っていました。何を思って落書きするのか全くわかりませんが、自分たちがした落



真剣な表情で作業する中学生たち

書きを他の誰かが処理してくれていることをわかってほしいです。

一人一人が自分の住んでいる地域を美しくしたいと思っていれば落書きをする人はなくなると思いました。』(2年3組男子)

6. おわりに

国道における落書き消しや清掃作業は、通常、国道維持出張所で行っていますが、今回はじめて地元中学生や学生ボランティアの方との協働で実施しました。

この活動を通じ、参加者だけでなく地域住民に対しても、落書きの悪性や環境美化の必要性について非常に効果的な啓発を図ることができたと実感できました。

さらに当日は、多くの報道機関(新聞社、テレビ局、ラジオ局、計6社)の取材もあり活動への関心が高いことも確認することができました。

地域の国道を維持管理する我々にとって、この歴史があり自然が豊かな和歌山が、住む人にも、訪れた人にもやさしい街であってほしいと願います。

これからさらにすすむ高齢化社会で、ますます環境に配慮したまちづくりが必要になるでしょう。

今回の取り組みが、地域住民の環境美化への意識向上の弾みになることを期待します。

最後に、作業をやり遂げた達成感とペンキで白く汚れた体操服姿で誇らしげに笑っていた生徒達の素直な眼差しが印象的でした。



掲載された新聞記事



参加いただいたみなさん